

すべての学校で保護者の負担軽減を進めましょう

～『あったら便利』から『なくては困る』の視点で補助教材の選定を～

2013・3・

はじめに ～ 「中間まとめ」にあたって

公教育、特に義務教育は児童の発達段階に応じて等しく教育を保障すべき役割があり、授業料無料、教科書無償の原則はもちろんだが、本来は教材教具などの諸経費も可能な限り公費で負担していくことこそが公教育の使命である。

あいつぐ企業の倒産等による経済的な困窮により、高校では進路変更や退学等を迫られている子どもが増加しているという。「日本の貧困率16%」という最悪の状況下で、教育費が生活に重くのしかかり、特に低所得世帯ほど教育費の負担割合は大きい。今年度発足した「保護者負担軽減PT」では、新年度を前に次のような提案をすべての組合員のみなさんに向けてまとめました。

1. なぜ保護者負担軽減を私たちはとりくむのか？

保護者負担軽減にとりくむわけは、全ての子どもたちのスタート地点を同じにしてあげたいと考えるからである。「教育の機会均等」の意味を問いかけるところからとりくみを進めてみたいと考える。

→ 「進路保障」という言葉に込められている意味の一つに、就学や就職・進学における差別(本人の責任や努力では、どうすることもできないこと)をなくしていくことがある・・・[教育や就労の機会を保障する条件整備]

＝鹿同教「進路を切り拓く」より＝

2. 保護者の負担軽減を進めていくために

(1) 学校でとりくんでみたいことを3つ提案

1) 年度末始めの補助教材選定を行う前に、職員会議等で次のような議論の場の設定

- ①多くの市販の補助教材が学校現場で使用されるのは？
- ②市販の補助教材は必要なか？なければならぬのか？

→ 補助教材を子どもたちに買わせなくても、同じ効果を果たすやり方はないのか？

【註】その際の「子どもたちをとりまく社会的・経済的環境」については、次頁以降の資料を参考

2) 教材の選定を慎重に(『あったら便利』から『なくては困る』の視点で補助教材の選定を)

- ①使途の明確でない集金を行わない(月々の集金の調整を行わない＝別紙資料①を参照)。
- ②集金計画を保護者の側に立ち設定する。
 - ア) 集金の月々の額を出来るだけ一定にし、かつ月々の額を平準化する。
 - イ) 集金日等を一定の週に設定する(月初めに給料が支給される家庭の月末は厳しい)。
 - ウ) 年間の集金計画を提示する(年度分が難しい場合でも、少なくとも学期毎には提示)。

3) 教材選定委員会の機能化(別紙、県教委の『通知』等を参照)

※来年度の教材選定にあたり、保護者の負担を軽減する方向で進めることの確認を行う。

→ 今年度使用した教材の「自己評価」を行ってみる(別紙資料②参照)。

(2) 地区協としてのとりくみ

地教委交渉の中で、『県教委通知』と『市町立学校教材取扱規則』の徹底を要求する。

※「教材選定にあたっての配慮事項」の徹底を校長研修会又は教頭研修会等で指導することの確認を行う(別紙、県教委の『通知』等を資料参照)。

資料

＜子どもたちが置かれている厳しい現状をまずは理解するために＞

1. 2012北薩地区支部教育研究集会『教育条件整備分科会』レポートより

最悪の状況下で子どもや保護者たちの厳しい現実が、北薩地区支部の教育研究集会で次のような報告があった。

＜貧困の中で子どもたちや保護者は＞

前任校で納入金や就学援助費の係をした。就学援助費は過去から全員現金受領であったので、私の時もそうした。以下、列挙するのは私が体験したことである。「自己責任論」が蔓延する中これらの一つひとつの現実と直面する度に心を痛め、また子どもや保護者のどうすることもできない憤りが垣間見えた。

- ①就学援助費を不登校の子どもの保護者に届けると「学校に行けないのに、なぜ教材費を払わねばならないのか」と言われ困った。
- ②就学援助費の申込書が書けない保護者にかわり、担任に書いてもらった。
- ③中学校に入学したが、給食費を小学校から一度も払わずにきた子どもの親に就学援助の申込みの文書を作成し、印鑑をもらいに行くと、その親は以前在籍した学校の生徒で事務室によく遊びに来ていた子であった（いわゆる「貧困連鎖」）。
- ④携帯も電話も止められ、文書で出しても就学援助費の現金を未納分へ回した領収書をなかなか持ってこず、次年度の継続の申込みのときに一緒に持ってきた。
- ⑤現金支給日に土日をこすお金がなく、食べさせられないので未納分に回す現金を生活費に貸してくれと言われた。
- ⑥子ども手当で差し引きできないか、市役所に掛け合ったこともある。
- ⑦不登校の子どもでもあり修学旅行費の学年部の積み立てが全くの未納で、就学援助費から出るとわかったら直前に行かせた保護者。
- ⑧月2回の納入日に持参する納入袋に、何回か100円や10円の小銭で3千円が入っていた。小銭をかき集めてきた様子がわかり胸がつまり事務室で一人・・・。
- ⑨給食費が何ヶ月も未納で、就学援助費を進めても受けない保護者もいて、何とか年度末に全額支払った（子どももそれに気づいている様子だった）。

やむを得ない経済状況でも頑張る保護者の姿や全然子どもの世話のできない保護者を見ると、いろいろ考えさせられることが多かった。

2. 子どもたちをとりまく社会的・経済的環境

(1) 世界各国との比較から

「教育費の多くを親が負担する」～日本の教育政策の大きな特徴～

このことを＜2012OECD教育調査（2009年データの分析）＞から見てみる。

1) 日本の教育支出は減少

世界的な経済危機にも関わらず、多くのOECD加盟国では、08年から09年にかけて教育支出（注：公財政支出と私費負担の合計）は増えている。対照的に日本では減少し、OECD平均の6.2%を下回る5.2%（但し、00年の5%からは上昇している）。

2) 教育支出は私費に大きく依存

日本の教育支出に占める私費負担の割合は31.9%。チリ・韓国に続き3番目に高い。OECD平均

の16%の2倍近い。しかもこの数字には、学習塾等の校外の教育費にかかる家計負担は含まれていない。日本では、就学前教育と高等教育（大学等）の私費負担割合が高い。

*就学前教育 OECD 平均 → 18.3% 日本 → 55.0%

*高等教育 OECD 平均 → 30.0% 日本 → 64.7%

3) 日本の高等教育の授業料は高い

日本の国公立大学の学生は、授業料として平均4,602ドル払っている。これは、米国(6,312ドル)・韓国(5,193ドル)・英国(4,731ドル)に次ぎ4番目に高い。学生はローンを抱えて卒業していることになる。

4) 奨学金へのアクセスは限定的

日本では奨学金など公的支援を受ける学生は33%。これは英国の94%、米国の76%を大きく下回る。日本は、高等教育に対する公財政教育支出が、GDPの0.5%しかなく、OECD平均の1.1%の半分以下で、OECDの中で最低レベルとなっている。

(2) 子どもたちの現実～深刻化する子どもの貧困

1) 厳しい生活環境におかれる子どもたち

○親が夜も働いていて子どもたちだけで夜を過ごす家庭の増加

* 一つだけの仕事では十分な賃金を得られず、ダブルワークで生活の糧をようやく得ている親の増加

○親の経済状態で塾や部活、進学をあきらめている子どもが目立つ

* このような境遇の子どもたちは、学ぶ意欲や将来への夢までも削がれている

参考:福岡県の◇◇市の中学校の調査では、

要保護・準要保護生徒の部活未加入率……14.5%

そうでない生徒の部活未加入率……11.6%

○学校生活をおくる上で最も基本的な学用品や制服の購入、校外学習費の支払いが不可能に

○一日を通して給食のみの食事しかできていない子どもや、病気や怪我、虫歯になっても病院に行けない子ども

参考:福岡県の◇◇市の中学校の調査では、

要保護・準要保護生徒のむし歯のない割合……7.0%

そうでない生徒のむし歯のない割合……24.3%

2) 年収別の教育費の負担率

※日本政策金融公庫の調査結果

[2010年度] 小学校以上の子どもをもつ家庭の教育費

* 平均198万円/年収の37% (2000年度以降もっとも高い教育費負担)

年収「200万円以上 400万円未満」の世帯では、年収に占める教育費の負担が56.5%になっている(教育費がいかにか生活に重くのしかかっているか)。低所得世帯ほど教育費の負担割合が大きくなっている。保護者は生活を切りつめて教育費を捻出しているのであり、それでもなお十分に教育費にお金をかけられずに悩んでいる。

3) 就学援助費の実態

2009年度就学援助対象児童・生徒 全国で過去最多の149万人

(前年度より5万1982人増/1995年度調査開始時15年間で2倍近くに)

4) 貧困の連鎖

2007年の大阪府堺市健康福祉局の調査から

(「貧困の世代間継承」が生まれていることが如実に)

* 生活保護世帯の25.1%が、みずから育った家庭も生活保護世帯

(2世代続けて保護を受ける率が母子世帯で40.6%)

資料 ①

学級費の見直し方の実践例

<一般的によく見られる集金の例>

行われている集金の方法は、次のように教材費を集めてから集金額をきりのいい額にするために、端数を学級費として集金しているのが、一般的な学級費の集め方です。

9月集金額		10月集金額	
漢字ドリル	340円	国語テスト	300円
計算ドリル	330円	算数テスト	300円
理科学習教材	250円	図工キット教材	280円
学級費	80円	学級費	120円
合計	1,000円	合計	1,000円
11月集金額		12月集金額	
理科テスト	280円	図工キット教材	300円
社会テスト	280円	学級費	200円
理科学習教材代	300円		
学級費	140円		
合計	1,000円	合計	500円
2学期集金合計		教材費	2,960円
		学級費	540円
		合計	3,500円

※この時に特に問題なのが、集金として集められた<学級費540円>の明確な使途が決まっていないところです。ほとんどの先生方が540円あるから何を支出すればいいかと考えているのではないのでしょうか。



<集金の仕方を次のように見直した例>

そこで、次のような方法で2学期の集金を行ってみてはどうでしょうか。

2学期集金計画			
漢字ドリル	340円	9月集金額	1,000円
計算ドリル	330円	10月集金額	1,000円
国語テスト	300円	11月集金額	960円
算数テスト	300円		
理科テスト	280円		
社会テスト	280円		
理科学習教材代	550円		
図工キット教材	580円		
合計額	2,960円	合計額	2,960円

※上記計画は予定であり、集金額に変更がある場合は、11月もしくは12月の集金で調整します。

上記のように学期単位で計画を立てて集金を行えば、集金額は同じように集金できて、学期最後の集金で端数の集金を行えば、計画性のない学級費の集金は行わなくてもよいこととなります。もし学級費で購入する予定のものがあれば、集金計画に計上して集金を行えばいいのです。

少しでも保護者の負担を軽減するために、取り組める部分から取り組んでみてはどうでしょうか。

資料 ②

記入例

補助教材選定資料(◇年生)

※2012年度使用された補助教材について、来年度の選定の一助にするために「使用状況」「内容」「価格」について担任の先生方に客観的に評価していただくための資料です。

教科	教材名	発行所	取扱業者	価格	部数	年額	評価(3/良い, 2/良くも悪くも, 1/まいち)				コメント
							使用状況	内容	価格	来年度採用の可否	
国語	たのしいおけいこカタカナ	文溪堂	◇◇教材社	300	1	300	3	3	3	3	2学期に届けて欲しい(教材社へのお願い)
	かんじVスキル	光文書院	▼▼▼堂	490	1	490	3	2	1	1	高い気がする。採用しません
	しよしゃノート	青葉出版	〇〇〇堂	310	2	620	3	3	3	3	
	国語テスト	*****	◆◆◆社	230+210	2+1	670	3	3	3	3	
	国語観点別テスト	*****	◆◆◆社	90	3	270	3	3	3	3	
	たのしいおけいこひらがな・すうじ	文溪堂	◇◇教材社	350	1	350	2	3	3	2	自作も可能と考えられる。
算数	くりかえしけいさんドリル	文溪堂	◇◇教材社	330	3	990	3	3	3	3	指導しやすい。子どもの練習量もちょうど良い。
	算数テスト	*****	◆◆◆社	230+210	2+1	670	3	3	3	3	
	算数観点別テスト	*****	◆◆◆社	90	3	270	3	3	3	3	
生活	せいかつかわくわくシート	光文書院	▼▼▼堂	340	1	340	2	2	2	2	型が一つあれば同じのをコピーして使う方が子どももわかりやすい
音楽	おんがくワーク	文溪堂	◇◇教材社	370	1	370	2	2	2	2	低学年にはワークが必要か検討が必要。
	ドレミファランド	+++++	+++++社	300	1	300	2	2	2	2	購入について話し合いが必要と思う(音楽部から全職員へ)
道徳	みんなの道徳	学研	●●教材社	570	1	570	2	3	3	3	公費で購入し学年保管はできないか?
年間一人当たりの計						6,210					